

【エクアドル経済:2016年8月】

1 主要鉱山開発プロジェクト進捗状況

- (1) 8月2日～5日、エクアドル鉱業省は、国家戦略プロジェクトに位置づけられている主な鉱山開発プロジェクトのうち、①フルータ・デル・ノルテ (Fruta del Norte) (サモラ・チンチペ県)、②ミラドル (Mirador) (サモラ・チンチペ県)、③リオ・ブランコ (Rio Blanco) (アスアイ県) の3案件について、進捗状況に係るプレスリリースをHPに掲載。
- (2) 上記①については、政府は、Lundin Gold 社との投資契約を承認した。実施されたF/Sによれば、同鉱山の埋蔵量は、482万オンスの金と634万オンスの銀とのこと。同投資契約は開発契約署名後、直ぐに署名される見込みである。Lundin社は、政府に対し、ロイヤルティとして6,500万ドル、最初の支払いとして契約書署名時に2,500万ドルを支払う。同プロジェクトの操業可能年数13年間に9億2,800万ドルの利益、つまり、年間平均7,200万ドルの国家収益が見込まれる。
- (3) 上記②については、現時点における向上建設工事進捗状況は、約30%。同プロジェクトは、2012年にエクアドル政府がEcuacorriente S.A社(中国)と締結した最初の大規模鉱山開発プロジェクトであり、同社の投資予定額は、16億ドル。同鉱山の予測埋蔵量は、銅296万オンス、銀2,608万オンス、金322万オンスであり、期待される日産量は6万トン、操業可能年数は30年。
- (4) 上記③について、ポベダ戦略部門調整大臣は、同プロジェクトにおいては400回以上の水質モニタリングが行われ、環境基準を厳格に遵守していることを強調。同鉱山の予測埋蔵量は、金60万オンス、銀43億700万オンスであり、年間生産量は24万トンである。また、投資額は約9,000万ドル。

2 ダヒク元副大統領による経済再生計画

- (1) 8月5日付当地紙エル・コメルシオは、アルベルト・ダヒク氏(経済学者。1992年～1995年、ドゥラン政権において副大統領を務めたほか、1985年～1987年には財務大臣を務めた。ネオリベラリズム派として知られる。)がエクアドル政府に対して提示した不況を乗り越えるための18ヶ月間の自由主義計画について、同氏のインタビュー記事を掲載。
- (2) 同インタビューにおける、ダヒク氏の発言ポイントは以下のとおり。
 - ア エクアドルの経済情勢は、自分が以前から様々な場で述べてきたとおり、非常に厳しい状況だが、政府は、同状況から脱却するためのリアクションをとっておらず、政府と野党との間でも経済計画に係る議論が行われていない。経済政策を修正しなければ、状況は最悪なものとなるであろう。まずは、現在の経済政策の過ちを認め、エクアドルが必要とする方向転換を行うことである。
 - イ (ダヒク氏が提唱する計画について) 計画は4つのコンセプトから成る。①ドル化経済

の保護, ②雇用の促進, ③銀行の流動資金の保護, ④収入の少ない者に対する影響を最小限に抑えることである。まず, 国際機関から柔軟な利率で多額の資金を得ることであり, 右により, 必要な資金を確保し, 資本市場にアクセスするための環境が作られる。その次に, 5%の海外送金税を廃止し, 国内総生産に対する公的債務上限40%の見直しを行い, セクターによって期限と条件を設定した「財政健全化債」を50億ドルから60億ドル分発行することである。そして, 中国からの悪い条件での借り入れを整理することである。同計画を実行すれば, 18ヶ月で効果が現れるであろう。2016年の経済危機は回避できないが, 今行動を起こさなければ, 2017年の経済危機も回避できないであろう。

3 ポリバル港建設計画

- (1) 8月9日付当地主要各紙は, エクアドル南部エル・オロ県に所在するポリバル港開発に係るコンセッション事業に関し, エクアドル政府が港湾事業で豊富な経験を有するトルコのコンソーシアム Yilport 社と契約を締結した旨報じた。
- (2) 8月8日, 運輸・公共事業省 (M T O P) は, トルコの Yilport 社との間で, ポリバル港開発に係る7億5,000万ドルの投資による50年間のコンセッション契約を締結。同港建設により, 現時点ではエクアドルに就航していない船舶企業を惹きつけ, パナマ湾に近いこと等から, 南太平洋の他の港と良い条件で競合することが期待される。
- (3) 契約署名式に招待されたコレア大統領は, 「本件コンセッション契約により, 政府は5億4,000万ドルを受け取り, その他の税金などから更に10億3,400万ドルを受け取ることになり, 後者の収入については, エル・オロ県及びマチャラ市に対するロイヤルティの支払いに充てられる。また, 50年間のコンセッション契約により発生する約5億ドルの税金を加えると, 現時点と比較し, 同港を通じた国家収入は約5倍になる。」と述べた。また, 同大統領は, 同港の開発はエクアドルにおける鉱業の発展の鍵になると述べ, 同港から, フルータ・デル・ノルテ, ミラドール, リオ・ブランコ, ロマ・ラルガの各鉱山にて産出される鉱物資源が輸出されることになると述べた。

4 韓国との通商協定締結に向けた第3回交渉

- (1) 当地政府系広報各紙は, 韓国との通商協定締結に向けた第3回交渉について報じた。8月22日から26日, エクアドルと韓国の経済協力戦略協定 (S E C A) 締結に向けた第3回交渉がキトで開催され, エクアドル側の交渉責任者であるアレハンドロ・ダバロス貿易省通商協定交渉・経済統合担当次官は, 本年中に協定に署名することを目標としている旨強調した。本件交渉に向けたF/Sは2012年に実施され, 具体的な交渉は2015年8月に開始されていた。
- (2) エクアドルから韓国に向けた輸出は2010年から2015年にかけて, 平均約80%増加しており, 主な輸出品目は, エビ, バナナ, ティラピア等の魚, 様々な果物

の加工品などである。

- (3) ダバロス次官は、エクアドルは本件戦略協定を非常に重要視していると述べ、同協定を通じて単に通商関係が促進されるのみならず、知識や経験の共有などを含め、両国社会の対話を深め、長期的な関係を築くことが目的であると述べた。同次官によれば、双方は、可及的速やかな協定締結について意見が一致しており、様々な分野における韓国の発展した産業や技術を背景として、同国からエクアドルへの直接投資を誘致することが狙いであると述べた。

5 EUとの通商協定締結に向けた交渉進捗状況

- (1) 8月26日付当地紙エル・ユニベルソは、エクアドルとEUとの通商協定が本年中に締結されない可能性について、カシネリ貿易大臣のコメントなどを掲載。
- (2) エクアドル政府は、EUとの通商協定批准が明年第1四半期（1月～3月）にずれ込む可能性を前に、輸出セクター支援する措置を検討している。同協定が本年中にされない場合、2017年1月以降、エクアドル産品のEUへの輸出に際し、更なる関税が加算される。コリア大統領によれば、特惠関税の喪失に伴うエクアドルの負担は年間約4億ドルと見積もられ、1四半期あたり1億ドルとなるとのこと。
- (3) 25日、カシネリ貿易大臣は、記者会見において、万が一、協定批准が本年中に実現しない場合は、輸出セクターに対する代替的な支援策を導入すると述べたが、詳細については言及しなかった。カシネリ貿易大臣の欧州訪問の後、9月12日には、グラス副大統領が欧州を訪問する予定。

6 ソプラドーラ水力発電所完工

- (1) 8月25日、エクアドル戦略部門調整省は、ソプラドーラ水力発電所（当館注：当国中部アスアイ県とモロナ・サンティアゴ県の県境に位置）建設計画完工に係るプレスリリースをHPに掲載。コリア大統領は、演説の中で、同プロジェクトはエクアドルにとって非常に重要なものであり、火力発電のディーゼル燃料輸入経費を年間約2億8,000万ドル節約できると述べた。また、同大統領は、同水力発電所建設に7億5,500万ドルが投資されたことに言及し、同プロジェクトは国民の「良き生活」に資するものであり、良い投資に勝る節約はないと述べた。
- (2) アルボルノス電力再生可能エネルギー大臣は、同プロジェクトの完工により、エクアドルの電力セクターは大きな変革を遂げ、環境に配慮した再生可能エネルギーを推進し、同国はエネルギーの輸出国となると述べた。
- (3) エクアドル政府は、同プロジェクト経費である7億5,500万ドルを賄うため、2011年10月、政府は中国のExim Bankと5億7,100万ドルの融資契約を締結した（プロジェクト経費の約85%）。残額（約15%）は国庫から支出した由。
- (4) 政府によれば、ソプラドーラ水力発電所の運営について、民間セクターと30年のコンセッション契約が締結されたとのことだが、契約金額や契約相手については明らかにされていない。

(了)